

EU Indicators

発表日: 2021 年 10 月 1 日 (金)

欧州経済指標コメント: 9月ユーロ圏消費者物価

～一時的な上振れ要因も多いが、価格転嫁の動きも散見～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

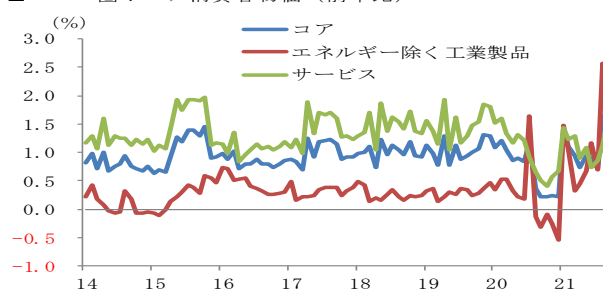
主席エコノミスト 田中 理 (Tel: 03-5221-4527)

- 9月のユーロ圏の消費者物価の速報値は前年比+3.4%と、前月の同+3.0%から上昇率が一段と加速し、2008年秋以来の水準に達した。速報段階で入手可能な内訳は、エネルギー価格（前月：同+15.4%→今月：同+17.4%）の上昇加速に加えて、変動の大きい食料・アルコール飲料・たばこ・エネルギーを除くコア物価（同+1.6%→同+1.9%）がインフレ加速を牽引した。食料・アルコール・たばこ価格（同+2.0%→同+2.1%）は小幅加速にとどまった。
- 速報段階で入手可能なコア物価の内訳は、前月に急伸したエネルギーを除く工業製品価格（同+2.6%→同+2.1%）が鈍化した一方で、サービス価格（同+1.1%→同+1.7%）が大幅に加速。ドイツの付加価値税率変更の影響、供給不足による工業製品価格の上昇、経済活動再開に伴うサービス価格の上昇、電力料金の引き上げなどが物価の押し上げに働いている。
- 国別のヘッドライン計数は、ドイツ（同+3.4%→同+4.1%）が1990年代前半以来となる4%を突破したほか、フランス（同+2.4%→同+2.7%）、イタリア（同+2.5%→同+3.0%）、スペイン（同+3.3%→同+4.0%）で押し並べて上昇が加速した。
- こうした物価上昇の多くは一時的なものとみられる一方、サーベイ調査での販売価格見通しが加速傾向にあるほか、最近の賃金交渉で高めの賃上げ要求が目立ち始めるなど、一部に価格転嫁の初期的兆候も散見される。欧州を襲う天然ガス価格の高騰は、冬場の需要期に向けて一段の価格上昇につながる恐れもあり、物価の高止まりが予想される。

■ユーロ圏: 消費者物価（前年比）

注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所：Eurostat

■ユーロ圏: コア消費者物価（前年比）

注：コア物価は食料・たばこ・アルコール・エネルギー除く
出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価 (%)

	2020				2021											
	4Q	1Q	2Q	3Q	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
消費者物価（前期比）	0.0	1.4	0.5	—	0.1	0.1	1.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.3	0.6	0.3	—	
（前年比）	-0.3	1.1	1.8	2.8	-0.3	-0.3	0.9	0.9	1.3	1.6	2.0	1.9	2.2	3.0	3.4	
コア消費者物価（前年比）	0.2	1.2	0.9	1.4	0.2	0.2	1.4	1.1	0.9	0.7	1.0	0.9	0.7	1.6	1.9	
食料/アルコール/たばこ（前年比）	1.7	1.3	0.6	1.9	1.9	1.3	1.5	1.3	1.1	0.6	0.5	0.5	1.6	2.0	2.1	
食料（前年比）	1.4	0.8	0.1	—	1.5	0.9	1.0	0.8	0.7	0.0	0.1	0.2	1.4	1.9	—	
アルコール（前年比）	-0.2	0.4	0.3	—	-0.0	-0.3	0.3	0.5	0.4	0.6	0.2	0.2	1.2	1.3	—	
たばこ（前年比）	5.6	5.1	3.8	—	5.4	5.4	5.4	5.6	4.3	4.4	3.8	3.1	3.0	3.0	—	
エネルギー（前年比）	-7.8	-0.6	12.0	15.7	-8.3	-6.9	-4.2	-1.7	4.3	10.4	13.1	12.6	14.3	15.4	17.4	

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・たばこ・エネルギーを除く。出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

